

# 2 路面電車を活用して目指すまちの姿

路面電車のまちづくりへの活用については、市民議論の結果や路面電車の特性を踏まえて大きく3つに整理された路面電車活用の視点から重点取組を明確にして実施します。

## (1) 路面電車の特性・特長を生かしたまちづくりへの活用

路面電車は利便性が高いということだけではなく、まちの個性や賑わいを創出するといった特性を生かすことで、「高齢社会への対応」や「都市の活性化」等のまちづくりに有効活用することにより、札幌市全体の活性化への貢献が期待できます。

### 高齢者等にやさしいまちづくり

路面電車は、路線や行き先が「わかりやすく」、定時性もあり、気軽に地上から乗り降りできるため、誰もが使いやすい乗り物です。

移動の「手軽さ」「安心感」もあるため、高齢者等の気軽なまち歩きや外出を促します。



### 魅力と賑わいのある都心のまちづくり

駅間距離が短い路面電車は、広い範囲に点在するさまざまな施設を面的に結ぶことで、便利な地域を拡大します。

デザイン性に優れた車両や施設が、通りの個性を演出するなど、沿線に新たなまちの魅力を形成していきます。



### 観光振興など活力あるまちづくり

路面電車は、軌道や停留場が地域の目印となるなど、土地勘のない観光客も含め、誰もが利用しやすい交通機関です。

観光客の移動を支えることや回遊行動の誘発など、まちに多くの賑わいを運びます。



### 環境負荷を抑えたまちづくり

路面電車は、CO<sub>2</sub>の排出量が少なく、まちの中で有害な排気ガスを出さないほか、誰もが使いやすい交通機関であるため、過度に自家用自動車に依存しない、歩いて暮らせるまちづくりの実現に貢献します。



## 路面電車活用の3つの視点



## (2) 路面電車活用の3つの視点と重点取組

路面電車活用の具体的な取組としては、市民議論やこれまでのさまざまな検討を踏まえ、都心に新たな回遊や賑わいを生み出し、魅力ある都心を創造するためには、都心の核となる3地区(札幌駅周辺、大通、すすきの)を結ぶ路線の延伸が必要であり、その第一歩として、大通とすすきのの2地区をつなぐ駅前通での路線のループ化を図ります。

ループ化にあたっては、活用の3つの視点から、駅前通でのループ化を含む以下の5つを重点的に取組みます。また、駅前通に多くの交流を生み出すさまざまな取組を進め、人が主役の魅力あるまちを目指します。

### 人の活動を支援 促す交通環境づくり

路線のループ化、新型低床車両の導入、施設のバリアフリー化などにより、多くの人の「利便性向上」を図るとともに新たな移動の誘発や外出機会の拡大を目指します。

- 駅前通での歩道側を走行する路線の整備(サイドリザベーション方式による路線のループ化)
- ループ化の実現までに3両の新型低床車両を導入
- 既設線のバリアフリー化やICカード導入等による機能向上

### 人をひきつける魅力的な空間づくり

デザイン性を重視した新型車両や施設等により、沿線の魅力を高め、札幌らしい人をひきつける魅力的な景観を創り出す「都市空間整備」を目指します。

- 車両や施設、街路空間等のトータルデザインの導入

### 人の交流と新たな賑わいづくり

地域の魅力を伝える情報発信や、イベントとの連携などを積極的に行い「活力の創出」を図り、人々の交流を活発にし、賑わいづくりを目指します。

- 停留場からの地域の魅力発信と沿道空間の利活用における地域との連携